

# 教職員情報

連載第1回

## 京大植物園観察会

■第37回 観察会のお知らせ

日時:4月14日(金)12:05~12:55

『タンポポから探る、生き物の分布』

今月から「京大植物園観察会」を連載します。毎月実施されている観察会の様子を(2ヶ月遅れになりますが)お知らせしてゆきます。観察会は毎月一回 参加自由で開催されています。

第35回観察レポート 2006年2月23日(木) 12:05~55 晴れ  
テーマ「虫たちの越冬場所」~植物を寝床に~ ガイド:嘉田修平(京都大学農学部昆虫生態学)

2月23日、天気予報では雨が曇りといわれていたけれども幸いにも晴れ、いい散歩日和の中、「虫たちの越冬場所 ~植物を寝床に~」というタイトルで観察会を行いました。越冬昆虫というのは昆虫を研究している人間でもあまりなじみがなく、一般の人には尚更だったかも知れません。特に、冬は卵や蛹という目立たない姿で越冬しているため、見つかりにくい面はあります。今回は、特に成虫のまま越冬している昆虫に焦点を当て、紹介しました。



写真1▲

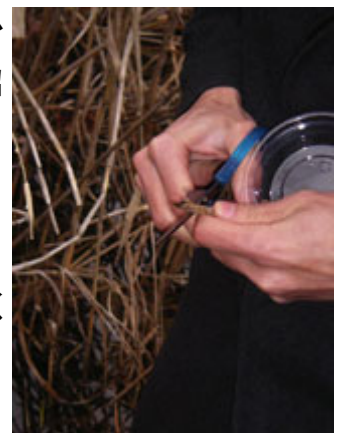
今回は、だいたい6種の昆虫を観察できました。まず、樹皮の割れ目を越冬場所として利用するヤニサシガメとヨコヅナサシガメ(写真1)。彼らは、幼虫で越冬します。ヤニサシガメはモミで、ヨコヅナサシガメはコナラで発見しました。幼虫の時は黒くてあまり目立たない格好をしているのだけれど、実はガの幼虫などを食べる強力な捕食者です。温度が低いときはほとんど動きません。



▲写真2

また、市街地ではそれほど見ることができないエサキモンキツノカメムシが空洞となったイラガの繭の中から見つかりました(写真2)。京大植物園では寄主植物(餌)があるためか、一年を通して見られる種です。直前の観察会の時は、何度も樹木のネームプレートの下から発見されていました。あとは、オオチャイロナガカメムシが朽ちた切り株で見つかりました。腐朽が進み、ぼろぼろになった中で数匹が固まってうずくまっていた。私もこの種を発見したのは初めてで、植物園もまだまだ知らないことだらけであることにびっくりします。別の切り株ではヒラタハナムグリという小さな甲虫が見つかりました(紹介はできませんでしたが)。

また、私が研究しているコバネナガカメムシが、池の周りのヨシに棲んでいます。彼らは、一年中ヨシ群落の中で暮らし、越冬は折れたヨシの茎の中でおこないます(写真3)。今回もそれを紹介することができて、私としてはとても嬉しかったです。参加者からも、こんなカメムシがいるとは想像だにできなかったという声も聞かれました。



▲写真3



▲写真4

さて、昆虫類の「越冬」にもう一度焦点を当てましょう。温帯では昆虫は必ず寒い冬をのりきらなければならないため、相応の方策を立てています。彼らの大敵は、大きく見て捕食者・寒さ・乾燥の3つです。それらから身を守るために、それぞれの種はそれぞれ特有の越冬場所をもちます。大木にできる割れ目やめくれた樹皮下などは、かっこうの越冬場所で、多くの昆虫が見つかります。(写真4)今回紹介したサシガメなども、それらを利用していました。彼らにとっては、乾燥しすぎない、目立ちにくいというようなメリッ

トがあるのでしょう。

また、昆虫にとって他の活動シーズンのすみ場所から移動可能な場所を利用するというのも大事だと考えられます。ヨシでみられたコバネナガカメムシは、水際の折れた茎などを利用します(植物園に限らず)。少し水位が上がれば流されてしまうような場所を、なぜ利用するのかというと、やはり餌を吸う場所からのアクセスがよいからだと考えられます。しかし、まだまだ分からないことはたくさんあります。樹皮を利用するカメムシでも、どの木のものでもいいのかというと、そういうわけではあ

りません。ある種では特定の木で多く見つかることがよく知られています。ただの隠れ家であるはずなのに、なぜ木を選ぶのでしょうか。それ以前に、なぜ落ち葉の下ではなく樹皮の割れ目を利用するのでしょうか。乾燥、低温、捕食者から身を守るための場所は、どのような条件で各種ごとに決まっているのか。疑問は次から次へと湧いてきます。しかし、残念ながらそれらに答える研究などはあまりありません。私は、この植物園に限らず野外を散歩するのが好きですが、これら越冬の疑問は冬の散歩のいい供となっています。なかなか簡単に扱える話ではないだけに、より興味をそそのめるのでしょうか。

#### ☆動物リスト

ヨコヅナサシガメ幼虫・ヤニサシガメ幼虫、エサキモンキツノカメムシ、ヒラタオオナガカメムシ、コバネナガカメムシ、ツヤアオカメムシ(死体)、ヒラタハナムグリ

#### ☆植物リスト

芽吹きが見られたもの: コリヤナギ、アケボノスギ、ニワトコ

蕾をつけていたもの: ヒイラギナンテン

開花していたもの: アセビ、スイセン(開きかけ)、ツバキ、モクレイシ

結実していたもの: アオキ、センダン、台湾モクゲンジ(落果種子を確認)、トウサイカチ、ナンテン、ボダイジュ、ハマヒサカキ、マンリョウ、ヤツデ、ロウアガキ(過熟)、ヤブラン(終りかけ)

京大植物園を考える会 <http://members.at.infoseek.co.jp/bgarden/>

| ひとつまえにもどる |

Copyright (C) SCOOP. NET Kyoto-Univ CO-OP. All Rights Reserved..